

1の動詞を学び、英語の10を知る

さきほどのページでは、
「SVO」が一番大事だと言いました。

完結に言うと、
「**SVOがマスターできれば、英語力が劇的にあがる**」
と言っても良いです。

自然な英文が簡単に作れるようになるんです。

実際に、英語の9割はSVOの文と言われていて、
もっと言えば、SVOOやSVOCなどの文型もSVOが元なので、
英語のほとんどがSVOと言っても良いです。

そんなことを言うと、
「SVとかSVCの文も英語にはあるよ！」
と思うかもしれません。

確かに、存在する英語の文で言えば、SVやSVCの文はあります。

ただ、英語は、SVやSVCの文であっても、
SVOで言えるなら、SVOで言うのです。

例えば、
「私は英語の先生です。」
という文。

これを英語にするとどうなるか？

ほとんどの人は、

「“〇〇は、～です。”だからbe動詞だろう。」
とっててしまいます。

したがって、
I am an English teacher.
みたいにするはずで。

でも、実は違ふんでは。

それでも意味は通じるんですが、
自然な英語を作るには何度も言いますが、SVOなので。

じゃあ、SVOで文を作るという条件だとどうなりますか？

こうなつた時にどうするかという、
「動詞」を軸に文を作っていきます。

ここではteachで。

つまり、
I teach English.
となります。

これで「私は英語の先生で。」となります。

日本語は「〇〇は～で。」という文構成を好みますが、
英語はそうじゃなく、SVOを好むので。

そうした理由は歴史的背景があるのですが、ここでは割愛します。
(『英語学習のセンターピン』やLINEマガジンで話しています。)

この英語の癖を知るだけでもかなり英語力が上がります。

一旦まとめると、
「SVOで文を作ることが英語の正義である」
ということです。

そして、途中チラッと言いましたが、
SVOで文を作るためには、動詞の理解が必須になってきます。

なぜなら、SVOは動詞を軸に作られているから。

でもって、SVOを作る上で厄介なことがありまして、
それが日本語と英語において大きく意味が異なるのが、動詞なのです。

例えば、
日本語では「風邪を引く」と言うように、風邪は“引く”ものですが、
英語では“catch”するものです。

だから、「風邪を引く」は英語で“catch a cold”って言います。

これを日本語的に言うなら、風邪を“つかまえる”わけですよ。

こんな風に、日英間において、
1対1で綺麗に対応していないのが動詞なのです。

名詞とかは大体1対1で対応しています。

「木」だったら、「tree」だし、
「犬」だったら、「dog」ですよ。

「木」が意味する対象と、

「tree」が意味する対象は同じなのです。

「犬」と「dog」も同様です。

ですが、**日英間で動詞の概念が決定的に異なってくる**わけです。

逆に動詞を上手く使いこなせるようになると、
英語を使いこなせるようになっていっていいでしょう。

じゃあ、どんな動詞から勉強したらいいのか？

それが「**基本動詞**」なんです。

今回は、「have」を例に出します。

せっかくページを見てくれたので、
「have」だけでも理解してください。

haveを理解すると、
ネイティブらしいSVOの文が作れるようになったり、
「～させる」という使役の文がわかるようになったりします。
他にも完了形に対する理解も深まります。

超コスパの良い動詞です。

ではいきましょうか。

動詞を正しく理解する上で大切なのは、

具体的な意味を覚えるのではなく、中核的な概念を捉えるということ。

「概念」って聞いても、ピンとこないかもしれませんが、
いろんな意味をグルッと一纏めにしたもの、
と思ってもらえるとひとまずOKです。

こういう概念のことを「**コアミーニング**」と言います。

要は、「**コア（中心）の意味**」ですよね。

haveで言えば、具体的な意味は辞書で見ると出てきます。

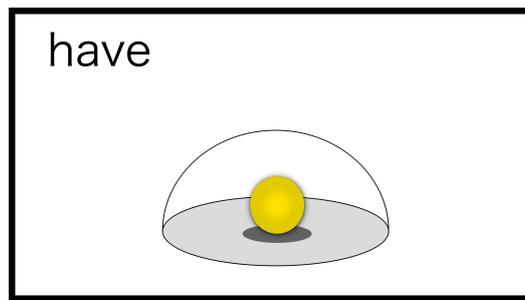
例えば、こんな感じ。

- ・（物的所有・所持の意味で）持っている
- ・（…を）持っている
- ・所有する
- ・身につけている
- ・与えられている
- ・（ある関係を表わして）もっている
- ・いる
- ・（…が）ある
- ・置いている

こんな感じで“具体的な”意味がいっぱいあります。

ですが、そもそも先ほど言ったように、
コアミーニングから全ての意味が派生しています。

じゃあ、そんな意味がいっぱいあるhaveのイメージはというと、



のような感じです。

haveは「**テリトリーの中に（自然と）ある**」ということ。

これがhaveのコアミーニングとなります。

ちなみにこのテリトリーは、
場合によっては縮んだり、伸びたりします。

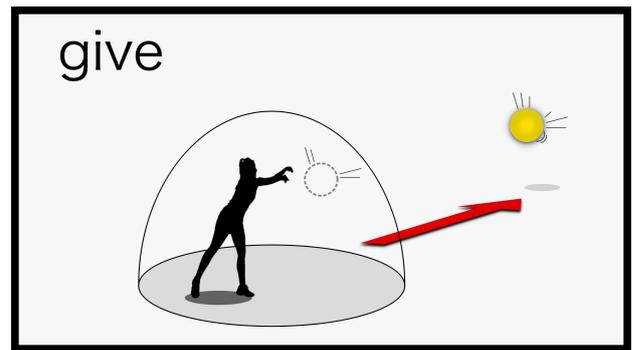
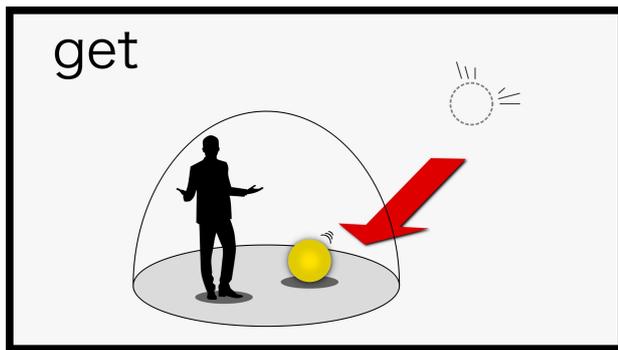
ですが、とりあえず、
「**テリトリーの中に（自然と）ある**」
と覚えておいてください。

あと、この文言を覚えるのではなく、
上の画像のイメージを頭に焼き付けてください。

そして、haveと比較できる動詞は、getとgiveです。

getというのは、
「**テリトリーの中に（対象を）取り入れる動き**」を表し、

giveは、
「**テリトリーの中から（対象を）出す動き**」です。



ここまでは大丈夫ですよ。

ちなみに、haveやgetや、giveというのは、
テリトリーという概念を代表する動詞なので、
それぞれ、弟分の動詞がたくさんあります。

- ・ 対象物（人）が自分のテリトリー内にある：have系列
have, own, possess, belong, etc...
- ・ 対象物（人）を自分のテリトリー内に入れる：get系列
get, catch, gain, earn, acquire, obtain, receive, accept, buy, etc..
- ・ 対象物（人）を自分のテリトリーから外に出す：give系列
give, provide, supply, present, etc...

子分の動詞たちはまだ覚えなくていいですが、
haveやgetやgiveのコアミーニングだけは頭に焼き付けてください。

子分たちは多少のニュアンスが異なるだけですから、
親分であるhaveやgetやgiveを理解するだけでいいです。

で、やってはいけないのが、
haveなら、haveを「持つ」と覚えてしまうこと。

そう覚えてしまうと、

I have a pen.

と言った時に、
ペンを持つ「動作」をイメージしてしまいます。

そうではなくて、haveは「状態」なので、
例えば、“**I have a pen.**”なら、

ペンが自分のテリトリー内にある

という「状態」を表しているのです。

それを日本語にした時に、
「ペンを持っている」
みたいになるわけです。

giveやgetは動作なんですが、
haveは「状態」なんですね。

だから、例えば、

I have a cold.

I caught a cold.

という2つの文があった時、
この違いはわかりますでしょうか？

caughtとはcatchの過去形ですが、これは、
8/25ページ

have系列の動詞

get系列の動詞

give系列の動詞

で言うとどれにあたるかわかりますでしょうか？

そう、get系列ですね。

つまり、catchは「つかまえる」って意味ですが、
その背景に、
「自分のテリトリー内に入れる」
というイメージが含まれていることを意識します。

すると、

I have a cold.

は、

「風邪が自分のテリトリー内にある」
＝「風邪を引いている」

となって、

I caught a cold.

は、

「風邪を自分のテリトリー内に入れた」
＝「風邪を引いた」

になるわけで、

haveは静止運動（状態）

get (catch) は引力運動（テリトリー内に引き寄せる運動）

という違いですね。

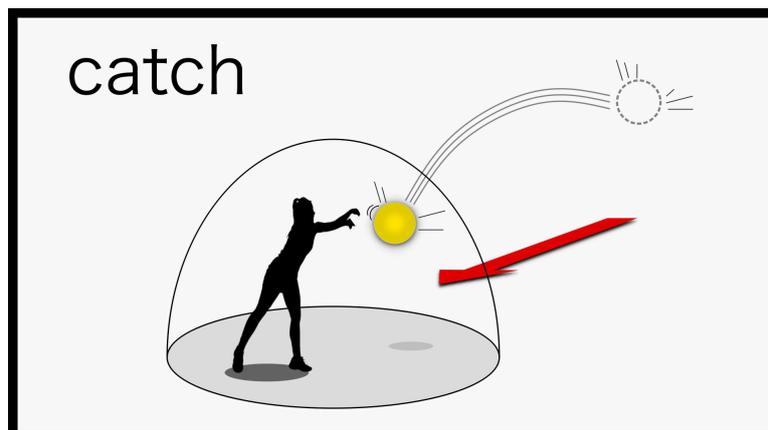
因みに、「風邪を引いた」はget a coldも一応OKです。

ただし、catch a coldの方がよく使います。

なぜかというと、catchは、

「動いているものをつかまえる」

というのがコアミーニングだからです。



散乱している風邪ウイルスを、

自分のテリトリー内に取り入れるってわけですし、

風邪ウイルスは頑張っ取り入れるものではないですね。

getだと、そのニュアンスが漂ってきますから。

ついでに言うと、

病気（痛み）系の単語はだいたいhaveを使います。

例えば、

「頭が痛いです。」

って言いたい時は、

「頭痛が自分のテリトリー内にあります。」

とえば良いわけです。

I have a headache.

これも、言われたら分かるけど、
haveを「持つ」と覚えているとなかなか出て来ない発想ですよ。

haveの「テリトリー内にある」という感覚は、
色んな文章を見て慣れていくと良いでしょう。

例えば、

Do you have any questions?

(何か質問はありますか?)

という言い方がありますが、
これも、「質問がテリトリー内にあるかどうか」を聞いているわけです。

じゃあ、この2つの違いはどうでしょう？

Can I have a beer?

Can I get a beer?

ここで、haveのイメージをもう少し深めたいなと思うのですが、

haveは、

「**テリトリー内であって、それに対して違和感が無い状態**」
という風に考えます。

つまり、have a beerと言う場合は、
ビールがテリトリー内であって、それに対して違和感が無い状態です。

要するに、haveだったら、
「この店にビールが置いてないとおかしい」
という前提があるわけです。

だから、居酒屋やバーとかで注文をする場合はhaveを使います。

それに対して、getというのは、
頑張ってテリトリー内に入れないといけない感じです。

getのコアミーニングは、
「**(気苦労や努力を経て、つまり頑張って) テリトリー内に取り入れる**」
という感じなので、

つまり、「あるかどうか分からない」のです。

なので、例えば、
「**“カフェ”に行って、ビールを注文する**」
とかであれば、

Can I get a beer?

となるわけです。

haveは最初から自然にテリトリー内にある、という感覚、
getは努力を必要とするから、あるか分からないってわけです。

このhaveとgetの違いは、
日本語で言うところの「は」と「が」の違いに少し似ています。

例えば、
CDショップに行って、店員さんに、
「ここに●●さんのCD“が”ありますか？」
って言ったとします。

この表現は、明らかにそのCDが目の前があると分かってて、
確認のために聞いてますよね？

これがhaveの感覚です。

逆に、
「ここに●●さんのCD“は”ありますか？」
と聞いた場合はどうでしょう？

この場合は、まだCDがあるかどうか分からない状態で聞いています。

これがgetの感覚なのです。

他にも、haveは、
朝食 (breakfast) 、昼食 (lunch) 、夕食 (supper/dinner)

などの単語たちとともに使われます。

例えば、

「**昼食を食べてます。**」

と言いたければ、

I am having lunch.

と言えば良いのです。

ここでlunchというのは、
食べ物（物質）を表すというよりは、

「**昼食を食べること**」

という概念を表します。

なので、

「**それ（食事）がテリトリー内にある**」

ということで、

have lunch = 昼食を取る

となるのです。

go to schoolとかgo to bedみたいなノリだと思ってもらえたらと。

（ここでのschoolとかbedは物理的な場所ではなく、概念なのです。）

ここまでは大丈夫ですかね？

さて、ここからさらに進めます。

haveは使役動詞と言って、

「**（人に）～させる**」

という意味でも使います。

他の使役動詞だと、get toやmakeやletなどもありますが、これら使役動詞の違いもコアミーニングで説明がつきます。

そもそも、いちいち使役動詞というカテゴリーで覚える必要は無いのですが、今回はあえてそう定義して考えてみます。

で、比較した方がわかりやすいので、getとhaveを使った使役文を比較してみましょう。

まずはgetから。

getは、「相手をテリトリー内に入れる」という引力系動詞でした。

ということは、例えば、

I got him to stop smoking.

と言った場合、彼を「タバコをやめる」というテリトリーに引っ張って来て入れる、ということになります。

結局、これは、「彼にタバコをやめさせた」という意味になるのですが、

このgetの場合は、「(頑張って)引っ張って来て、やめさせるテリトリー内に入れた」ということ。

つまり「説得してやめさせた」というニュアンスになります。

getの場合、後に来る動詞の前にtoが付きます。

これは、「クッションのto」と呼んで、
これを挟むことで、強制力を弱める効果があります。
(ひとまず「クッションのto」はスルーでオッケーです。)

で、
「どうしてもタバコはやめたくない！！」
って言っている彼に強制的にやめさせた場合は、
makeを使います。

なぜなら、makeのコアミーニングは圧力を加えるからです。

makeのコアミーニングは、
「コネコネする」
というイメージです。



粘土のようなものをコネコネして圧力を加えることで、
対象となる形の性質を変化させるわけです。

例えば、
「この映画は悲しかったよ。」

って言いたい場合どうすれば良いか？

ここで最初に言った、

「**beをなるべく使わずにSVOにする**」
ということを意識して下さいね。

すると、

This movie made me sad.

が出てきます。

makeは、
圧力を加えて性質を変化させるので、

「悲しくない状態」 → 「悲しい状態」

へと変化させたわけです。

あるいは、

「(私は) 彼女を妻にしました。」

と言いたければ、

I made her my wife.

となります。

これは、

「妻じゃない状態」 → 「妻である状態」

に変化させたのです。

こんな風に、makeは性質を変化させる動詞なのです。

使役動詞のmakeも同じで、

I made him stop smoking.

だったら、

**私が彼をコネコネして、
無理矢理タバコをやめさせた、**

ってことになります。

つまり、この文章の背景には、
「彼は『タバコをやめたくない!』と思っている」
というのがあります。

コネコネすると、
性質が強制的に変化してしまいます。

だから、makeなんです。

ですが、
「体に悪いしそろそろやめた方がよいよ」
と説得してやめさせた場合はgetを使います。

じゃあ、haveの場合はどうなるのか？

haveは、

「テリトリー内にあって、それに対して違和感が無い」
でした。

ということは、

getのような「圧力」は一切ありません。

もし、

I had him stop smoking.

と言った場合、

「タバコをやめる」
というテリトリー内に、
最初から彼がいることになります。

なので、

「タバコをやめさせる」
って言いたい時にhaveを使うのは、
ちょっと変です。

haveは、「するのが当然と思われることをさせる」場合に使いますから。

なので、関係性も大事になってきます。

例えば、

部下、秘書、従業員、親から見た子供、
などなど。

こうした関係性の場合、

圧力を加えずとも、自然とすることになります。

だから、その場合にhaveを使うのです。

例えば、

「息子におつかいに行ってもらった。」
って言いたい場合。

I had my son go on an errand.

になります。

この文章の場合、

「いつも行っている（それに対して文句は言わない）」
という前提があります。

もし、

「いやだ！！絶対行きたくない！！」
って言っている息子に対して、
「いいから行きなさい！！」
と怒って行かせる場合は、

I made my son go on an errand.

(息子をコネコネして強制的におつかいに行かせた)

となります。

あるいは、

「ほら、お小遣いあげるからさ、行って来てよ。」
と説得したり、お願いしたりして行ってもらった場合は、

I got my son to go on an errand.

(息子を「おつかいに行く」というテリトリーに引っ張って入れた)

となります。

※クッションのtoを挟みます。

さて、have、get、makeの違いはだいたい分かりましたでしょうか？

じゃあ、ちょっと練習です。

「後ほど、彼に折り返し電話させますね。」

って言いたい場合はどれを使いましょうか？

折り返しの電話をすることは、
別に強制する必要も、説得する必要もありません。

当たり前のように、テリトリー内にあることです。

だから、

I'll have him call you back later.

とすればOKです。

では、

「友人に夕食を作ってもらいました。」

って言いたい場合はどうでしょう？

これは、「当たり前」というよりは、
「お願いして作ってもらった」
と考えるのが自然です。

なので、

テリトリー内に引っ張って来た、

ということで、

I got my friend to cook dinner.

となります。

(クッションのtoを挟みます。)

では、続いて、

「息子に英語の勉強をさせました。」
と言いたい場合はどうでしょう？

状況にもよりますが、

「勉強したくない」って思っている息子に
「勉強しろ」と圧力を加えた、

と考えるのが自然なので、

I made my son study English.

とするのがベターでしょう。

じゃあ、次に、

「コンシェルジュに近くの良いレストランを探してもらいます。」
とりたい場合はどうでしょう？

これは、関係性上、やってもらうことに圧力を必要としないので、
テリトリー内にはじめからあること、と考えます。

なので、

「近所のレストランを探す」というテリトリーに、
コンシェルジュを置く、

と考えて、

I'll have the concierge find a nice restaurant near here.

となります。

コンシェルジュにお願いするので、
get the concierge to findとしたくなるかもしれませんが、
コンシェルジュはそのお願いを1ミリも嫌だと思っていないので、
haveを使います。

続いて、

「妹に皿洗いを手伝わせました。」
だったらどうでしょう？

毎日やるのが当たり前、という状態ならhaveでも良いし、
「絶対嫌！！」って言ってるのを無理矢理手伝わせたならmakeですが、
この場合は、「お願いしてやってもらった」と考えるのが自然です。

なので、クッションのtoも入れて、

I got my sister to help me with dishes.

となります。

・・・というわけで、テリトリーという概念を覚えておけば、使役動詞を覚えることにそこまでエネルギーを使わずに済みますよね。

今回、letだけあえて説明していませんでしたが、またそのうち説明するとしましょう。

今日の話をもとめると、

1. make 人 do

コネコネして、性質を変化させる。
つまり「(強制して) させる」ということ。

2. have 人 do

doする人をテリトリー内に置く、
しかもそれは当たり前のこと。
つまり「(当然のように) やってもらう」ってこと。

3. get 人 to do

テリトリー内に引っ張って来て、何かをさせるけど、
クッションを挟んで強制力を弱める。
なので、「説得して～させる」や「お願いして～させる」となる。

という風になります。

単に意味を覚えるだけでなく、
その背景のコアミーニングをセットにして覚えておくと、
忘れなくなるはずですよ。

こんな風に基本動詞をしっかり勉強すれば、
英語の文法の基礎は出来上がると言ってもいいです。

しかも、暗記ではなくて、しっかり原理で理解できます。

勉強は暗記ではなく、理解です。

しっかり理解をしていきましょう。

それでは、今日はこの辺で。

英語学習のセンターピンはこちらから読めます。

LINE登録で読む 